

三川小学校の歴史

年月日	西暦	事由
天保 3～ 明治 8	(1832 ～ 1875)	鈴木宗元(萱間村)は、医業のかたわら、寺子屋式の教室を自宅で開き、教えを受けた者は20年間に100名に達したという。 宗元は、47才で亡くなったが、教え子の中から地域を背負う多くの人材を輩出した。
幕末～ 維新时期		三川の寺子屋 郡史によれば、萱間村 鈴木宗元のもとに40名、友永村 西尾雄左衛門のもとに50名、西尾右衛門のもとに30名。 なお、鈴木宗元塾は寺子屋の中に含めてはいるが、正しくは漢字塾であろう、としている。
明治 5. 5. 7.	(1872)	浜松県管下となる。太政官布告 学制発布 ・学制の概要 学区 全国を8大学区とし、1大学区に大学1校を設ける。 1大学区を32の中学区に分け、1中学区に中学校1校を設ける。 1中学校区は210の小学校区に分け、各1校の小学校を設ける。以上の計画であったが、地域の実情に合わないものも多く、幾度かの改革が行われた。 三川の場合、第2大学区、第12中学区に属し、 第134番小学区 見取村、大海村、樋口村、藤野村 " 135 " 友永村、大谷村 " 136 " 下川会村、上川会村、上原村、東原村 " 142 " 下萱間村、上萱間村、大久保村 " 145 " 山田村、大当所村、米倉村 1年が半年ずつ2級に分かれ、下等が4年で8級～1級、上等が4年で8級～1級。すべて 試験で、これに合格すれば、年数に関係なく進級や卒業ができた。 毎月末に小試験が行われ、成績によって席次が決まり、前の方から出来る順に席が決められた。 中試験は、年2回、各級の終わりに行われた。 大試験は、下等・上等の卒業認定のための試験で、師範学校や郡役所から試験官が来て、戸長や学校取締、隣接校の職員等立ち会いのもと、厳正に行われた。 ・教科内容は 下等→読法・習字・書取・算術・口授・作文・地理・歴史・体操・唱歌 上等→修身・文法・算術・簿記・習字・生理・博物・作文・化学・物理・図画・裁縫・体操・唱歌
明治 5 年以 降		明治5年以降、三川地区に根付いた報徳の教えは、村づくりの土台となった。各社の結成は 明治5. 1. 1. 山田社、 明治6. 1. 12. 萱間社、 明治12. 7. 7. 友永社、 明治12. 7. 20. 川会上社、 明治13. 7. 16. 川会下社、 明治42. 11. 3 0. 東大谷社、 大正2. 3. 15. 見取下社、 大正2. 3. 23. 見取上社、

		大正3. 2. 5. 大谷西社
6. 6. 10.	(1873)	上・下萱間村が合併して、萱間村となる。 浜松県より「学校開設について」示達が出される。内容は (1)小学校創立予定地として、本中学校区の中に28か所を指定。その中に友永・山田が入っていた。 (2)学校は新築しなくても、寺や空き地を使ってもよい。 (3)村が貧しくて学校建設がむずかしい場合は、最寄りと合併するか、家塾で学ばせてもよい。 (4)女子は別席を設けて学ばせてもよい。 (5)貧村では、無理に1校を設けなくてよい。授業料は問わず、就学させるように。 (6)夜学を設け、昼間 農作業により、時間のない者も学ぶことができるように配慮すること。 (7)学科は、必ず読書、習字、算術の3科を授くること。
6. 10.	(1873)	学制発布の趣旨を奉戴し、村内有志、向こう10年間の義金致したき旨の願出があった。
6. 11. 23.	(1873)	豊田郡友永村、下川会村、上川会村、大谷村、牛飼の5か村が、連合して小学校をおく。 友永村 積雲院本堂を仮校舎として、開校。 教師として、士族 永井定勝、補助教員として小島幸次、寺田周平の3氏を招いて開校した。就学率は人口の7%、生徒数は50～60名。無学年で、開校当時は昔の寺子屋と大差なかった。 費用は一切徴収せず、有志による向こう10年間の義金により、賄われた。 第2大学区、第12中学校区、第135番小学校、「 友永学校 」と称する。 ・深見学校、延久学校(明治6～9年)も、友永学校の分校として開校。 ・見取学校(明治6～10年)も開校。当時 使用した校印の大小2個が現存している。 ・三川の大半は、第2大学、第18小区となる。
8.	(1875)	第2大学区 第14小区となる。
9. 4. 28.	(1876)	公立学校夜学規則が浜松県第44号により布達される。
9. 7.		深見学校、延久学校が合併して、独立校となる。
9		第2大区 第13小区となる。
9		浜松県が廃止され、静岡県に属す。
10. 1. 8.	(1877)	見取村が学区に加わり、、生徒数138名(男84名・女54名)となる。

10. 1. 10.		豊田郡 第12番中学校区第135番「友永学校」といい、学区は、見取村、大谷村、友永村、下川会村、上川会村、牛飼村連合の共立校となる。初代校長 永井定勝氏は辞任。後任として、静岡県士族 吉田吉直、補助教員として、小島幸次、寺田周平、鈴木宇平、兼子民平の5氏が就任。戸長に代わり、学校を管理する者を、学校幹事、幹事補と称して 松井八郎平、秋鹿長谷六の両氏が就任した。
11. 11. 16.	(1878)	向笠、深見の2校と併せて、下等小学全科の卒業大試験を行い、初めての卒業生男子3名を出す。(丙1、丁2)
12.	(1879)	郡制施行。豊田郡に所属。(以前より豊田郡下ではあった。)
12. 2. 26.		牛飼村、藤上原に分校を設ける。
13. 1.	(1880)	規則改正。連合村385戸、人口1822人に対し、日々登校する者 平均93人。20.3%の就学率となる。
13. 10.		女生徒のために、裁縫授業を始める。
13. 12. 25.		就学 男子92名、女子46名。 不就学 男子11名、女子54名。 就学率 男子89%、女子46%。 平均68%となる。
14.	(1881)	谷中、中川、萱間 の3か村を学区として、「萱間学校」を設立する。
15. 4. 1.	(1882)	下等小学(4年)、上等小学(4年)を改め、初等(3年)、中等(3年)、高等(2年)とする。
15.		上・下川会村が合併して、川会村となる。
15. 10. 20.		大谷境、友永村下田山の中腹に、新校舎落成。
15. 12. 21.		萱間学校の卒業証書が現存する。
16. 10.	(1883)	豊田郡 第10学区 友永学校となる。学区は、友永、大谷、見取、川会の4か村。
17. 7. 1.	(1884)	9学区 向笠学校を、友永学校の分校とする。学区は、笠梅、竹ノ内、篠原西の3か村。 町村組合を組織。官選戸長となり、町村連合して組合役場をおく。 見取村 外7か村—豊田郡見取、大谷、友永、川会、竹ノ内、篠原西、藤上原、笠梅 山田村 外7か村—豊田郡山田、米倉、大当所、敷地、家田、岩室、虫生、大平 谷中村 外3か村—周智郡谷中、萱間、中川、五川
19.	(1886)	中川村の精成学校に、萱間学校を統合する。(周智郡誌による)
19. 4. 1.		小学校令改正。「初等」「中等」「高等」を改め、「尋常」「高等」とし、修業年限は各4年となり、「友永尋常小学校」となる。第4学年までが義務教育となる。
20. 3. 28.	(1887)	「学年度」への改正。「4月1日に始まり、3月31日に終わる」に改められる。それまでは、1月1日に始まり、12月31日に終わる「暦年度」であった。

21. 12. 13.	(1888)	萱間村を豊田郡へ編入する。
22. 3. 15.	(1889)	受験生235名。卒業生37名(男子39名、女子8名)。成績 甲64名、乙93名、丙53名、丁10名、戊7名、落第8名であった。
22. 4. 1.		市町村制施行。 見取、大谷、友永、川会、山田、萱間の6か村が「三川村」となり、1村1学区となる。「三川尋常小学校」となり、向笠分校は分離独立。
22. 7. 1.		山田の児童32名が転入学。
23. 4. 1.	(1890)	萱間の児童が転入学。 児童数219名となる。
25. 10. 30.	(1892)	天皇陛下御影、教育勅語謄本御下賜、2階校舎に奉安する。
26. 4.	(1893)	修業年限3か年の補習科を設ける。
29. 3.	(1896)	郡配置がえ。 磐田郡となる。
30. 3. 31.	(1897)	就学237名。 不就学66名。
30. 4. 1.		補習科廃止。修業年限2か年の高等科を併置。「 三川尋常高等小学校 」となる。
33.	(1900)	学校、家庭通告簿が作られる。
35. 4.	(1902)	特別学級をおき、子守学級を始める。
35.		家庭教育会がつくられる。その会則が現存する。
35.		青年夜学会が創立。 同会則が作定された。
37. 4.	(1904)	高等科の修業年限を3年に延長する。 国定教科書が使用される。
38. 4. 1.	(1905)	就学255名。 就学率 男子99%、女子98%。 不就学 - 貧困、男子2名、女子2名。 疾病免除男女各1名。 子守学級に女子12名。
39. 3. 31.	(1906)	特別学級(子守学級)を廃止する。
40. 4. 1.	(1907)	小学校令改正。尋常小学校修学年限6か年となり、高等科の修業年限2か年となる。尋常科を義務教育とする。
40. 4. 30.		就学率 男子111名で100%。 女子102名で98.7%。 病気免除 女子2名のみ。
44. 4. 16.	(1911)	校地、校舎が狭隘となったので、下田山から友永字横町(現在地)に校舎を移し、校舎新築および改築落成する。 校地2136坪、 建坪418坪。
45. 6. 5.	(1912)	村立三川補習学校 男子の部 を付設する。
大正 2. 2.	(1913)	三川村自治発展方法を、三川村と学校が一体となって策定した。

28.	2. 7.		村立三川図書館を付設する。
6.	4. 5.	(1915)	11月14日に行われる大正天皇即位後の大嘗祭の献穀奉耕者に、萱間 青木熊吉氏が選抜される。
29.	4. 10.		大正天皇御影拝戴。
10.	4. 11.		大正天皇御即位の記念植樹。松の苗木を各字2本ずつの計12本植える。これらの木は、現在も、三川小学校正門南側の松並木として残り、袋井の名木に指定されている。
1.	5. 4.	(1916)	村立三川女子補習学校を付設する。
	9.	(1920)	講堂を増築する。
1.	10. 7.	(1921)	付設の両補習学校を廃止。三川実業補習学校と改称。男子部、女子部を設ける。前期2年、後期2年、研究科4年とする。
	12. 7.	(1923)	三川村村是をつくる。
	15. ~	(1926 ~)	学校新饌田を付設する。目的は、「敬神尊王報恩反始祖先崇拜の精神を根付かせ、団体擁護の根本精神を鼓舞作興」すること。同時に、「ややもすれば薄らがんとする勤労意識尊重と報恩行為の尊さを鼓舞高揚して国力の充実を図るとともに、健全な国民道徳を涵養」すること。
1.	15. 7.		三川尋常高等小学校に、青年訓練所を付設する。
昭和2. 15.	2.	(1927)	実業補習学校を「村立三川補習学校」と改称する。3月15日付けで、青年訓練所に充当。
11.	3. 2.	(1928)	補習教育の成績優秀により、文部大臣表彰を受ける。
10.	3. 11.		昭和天皇御即位の記念樹として、三川小に3本、役場と各神社に各1本のユウカリ樹を植樹する。いずれも、今は残っていない。
29.	5. 1.	(1930)	皇太后御影拝戴。
30.	5. 5.		三川村 及び三川公民学校優秀の故を以って、昭和天皇県下行幸の際、本多侍従御差遣の栄に浴す。この時、三川村是説明書、要覧、写真集他を奉呈する。
29.	6. 1.	(1931)	昭和天皇御影拝戴。
28.	10. 5.	(1935)	学校神社(照郷神社)御神体を伊勢神宮より迎える。
1.	16. 4.	(1941)	三川尋常高等小学校を「 三川国民学校 」と改称する。初等科6年、高等科2年となる。

16. 12. 8.		太平洋戦争 勃発。
19. 12. 7.	(1944)	午後1時過ぎ、 東南海地震 (M8.3)発生。被害甚大。三川では、役場、学校、農協をはじめ、倒壊110戸、 死者 11名(うち 本校児童8名)の被害を出した。
20. 8. 15.	(1945)	敗戦。
22. 3.	(1947)	教育基本法、学校教育法 制定。6・3・3・4制が成立。
22. 4. 1.		男女共学を原則とした義務教育6・3制スタート。「 三川村立三川小学校 」となる。
22. 5. 3.		三川小学校に付設して、三川中学校 開校。
22. ~29.		三川小学校では、新教科社会科研究を進め、県下の先進校として活躍した。
24.	(1949)	社会教育法施行。三川小学校章制定。
28. 10. 28.	(1953)	三川小学校プール竣工。
30. 3. 31.	(1955)	三川幼稚園設立認可。三川村は袋井町と合併。「 袋井町立三川小学校 」となり、三川中学校は、「袋井町立北部中学校」となる。
30. 4. 8.		三川幼稚園は、三川小学校の1室を借りて、隔日保育を始める。
31. 4. 3.	(1956)	三川幼稚園が、毎日保育を始める。
33. 3. 31.	(1958)	組合立周南中学校 設立認可。 4/1の発足により、北部中学校は廃校となる。
33. 4. 6.		三川幼稚園が、北部中の廃校により、南校舎2室に移転。
33. 11. 3.		市制施行。現在の「 袋井市立三川小学校 」「袋井市立三川幼稚園」となる。
36. 10. 2.	(1961)	三川小学校、三川幼稚園、完全給食実施。
38. 1. 1.	(1963)	山梨町 袋井市に合併。
38. 2.		三川小学校校歌 制定。
39. 4. 1.	(1964)	三川公民館 開館。 三川小学校運動場 拡張。
40. 4. 7.	(1965)	三川幼稚園 2年保育開始。
49. 3. 17	(1974)	開校100周年記念事業として、「 やすらぎ碑 」建立。

49. 4. 14.		三川小開校 100 年記念式典。 卒業生総数 5649 名。
51. 3. 30.	(1976)	三川小学校 大・小プール竣工。
54. 4. 1.	(1979)	三川公民館に事務職員を配置。
55. 2. 4.	(1980)	三川幼稚園 園舎落成。移転。
56. 6. 23.	(1981)	三川小学校 新校舎 落成。
57. 2. 10.	(1982)	三川幼稚園 園歌 制定。
57. 3. 5.		三川小学校 体育館 落成。
57. 8. 16.		三川小学校 夜間照明完成。
60. 3. 4.	(1985)	三川公民館 落成。
63. 11. 8.	(1988)	豊かな村づくり優良地区として、関東農政局長表彰を受ける。
平成 2. 1. 25.	(1990)	給食優良校として、県教育委員会表彰を受ける。
2. 4. 1.		三川公民館に指導員配置。
5.	(1993)	岐阜県大垣市立青墓小学校との交流が始まる。
7. 11. 7.	(1995)	青墓小との交流を記念して、けやき植樹。